

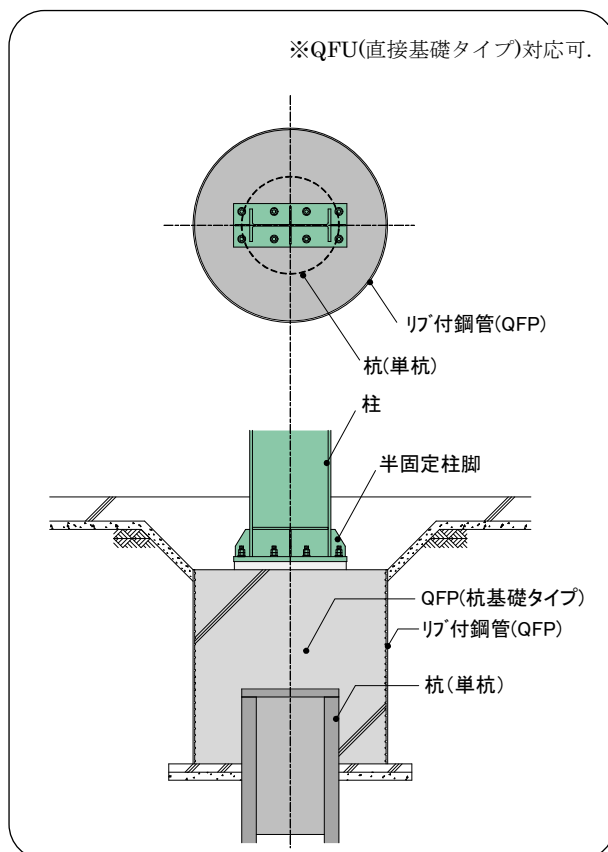
### 「トレオ」 半固定柱脚基礎システム開発

(目的) 当社では、地中梁を設けない柱下部の独立フーチング基礎（直接基礎＝QFU、1本杭基礎＝QFP）に、皿ばねや支承板を利用した柱脚固定度の低いピン柱脚基礎システムは多数実績がある。今般、これに固定度を高めた「半固定柱脚」を新たに追加する。これまでに10数件の実績があるが、今般、専用見積システムや構造計算手法を整備し、体系的なシステムとして構築する。ピン柱脚では十分なメリットが出ていなかった大型物件や多雪地区物件での適用率を高める。

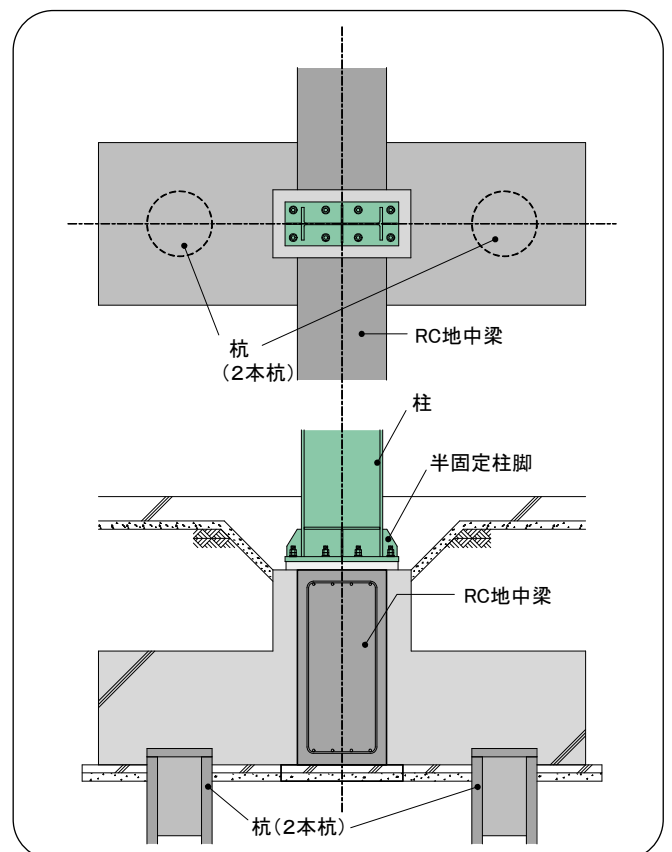
(特徴) 半固定柱脚用ベースプレートを組み込んだ鉄骨柱と、従来の当社のプレハブ式基礎ユニット（QFU、QFP）で構成される。柱脚の固定度を高めることで、上部鉄骨の重量を軽減することができる。床積載荷重が大きい物流倉庫や工場、積雪荷重の大きい多雪地域では鋼材重量が軽減できる。基礎については、型枠大工と鉄筋工が一切不要な工法である。

(効果) 地中梁を省略できるため、一般工法と比べて、躯体部分で10%程度のコストダウンと25%程度の工期短縮が期待できる。また、専用の見積システムにより、24時間以内の見積対応も可能になる。

(目標) 年間10棟程度の販売を目指す。



半固定柱脚基礎システム（当社開発）



(参考) 一般の基礎工法